

110 japanese famous songs

日本名歌110曲集

1

全音楽譜出版社

110 japanese famous songs

日本名歌110曲集

1

全音楽譜出版社

●———目次（カッコ内は作詩者）

●滝廉太郎

荒城の月（土井晩翠）————— 6

秋の月（滝廉太郎）————— 8

花（武島羽衣）————— 10

●本居長世

白月（三木露風）————— 14

別れし宵（竹久夢二）————— 16

咲いたさくら（日本古謡）————— 18

関の夕ざれ（日本古謡）————— 20

●中田 章

早春賦（古丸一昌）————— 24

●藤井清水

河原柳（野口雨情）————— 26

信田の藪（野口雨情）————— 28

●杉山長谷夫

出船（勝田香月）————— 30

秋の唄（蔭谷虹児）————— 31

片しぶき（西岡水朗）————— 32

花嫁人形（蔭谷虹児）————— 33

●弘田竜太郎

小諸なる古城のほとり（島崎藤村）————— 35

かもめ（室生犀星）————— 40

浜千鳥（鹿島鳴秋）————— 46

あさね（松原至大）————— 48

神田祭（小林愛雄）————— 52

叱られて（清水かつら）————— 54

昼（林 古溪）————— 56

●成田為三

浜辺の歌（林 古溪）————— 58

望郷の歌（古丸一昌）————— 60

●草川 信

山のかえりに（久保田宵二）————— 62

はつなつ（室野たくま）————— 64

河原菜種（浜田広介）————— 66

月待草（村田米四）————— 68

●梁田 貞

昼の夢（高安月郊）————— 70

城ガ島の雨（北原白秋）————— 77

●小松耕輔

母（竹久夢二）————— 80

垣の壊れ（北原白秋）————— 83

赤い夕日（北原白秋）————— 86

砂丘の上（室生犀星）————— 88

芭蕉（北原白秋）————— 91

泊り船（北原白秋）————— 94

●山田耕柝

鐘が鳴ります（北原白秋）————— 98

六騎（北原白秋）————— 100

松島音頭（北原白秋）————— 102

曼珠沙華（北原白秋）————— 104

かえり路（小林愛雄）————— 108

沖の鷗に（日本古謡）————— 111

来るか来るか（日本古謡）————— 112

母のこえ（大木惇夫）————— 114

おろかしく（北原白秋）————— 116

ベチカ（北原白秋）————— 118

この道（北原白秋）————— 120

さくらさくら（日本古謡）————— 122

中国地方の子守歌（日本古謡）————— 123

●信時 潔

我手の花（与謝野晶子）————— 127

子供の踊り（与謝野晶子）————— 128

丹沢の（清水重道）————— 130

沙羅（清水重道）————— 134

行々子（清水重道）————— 136

●松島つね

真珠（武内俊子）————— 138

●笑作秋吉

妹に（加藤周一）————— 139

讃歌（笑作秋吉）————— 144

子守歌（笑作秋吉）————— 145

悲歌（沙良峯夫）	146
●大中寅二	
子守唄（柴田篤子）	150
ふるさと（葛葉国子）	152
椰子の実（島崎藤村）	154
わすれなぐさ（葛葉国子）	156
●下総皖一	
ほととぎす（野口雨情）	158
山のあなた（カール・ブッセ／上田敏訳詞）	160
鐘のなる（柳原白蓮）	163
●坂本良隆	
ふなうた（三木露風）	164
宝石（三木露風）	166
パライソ（三木露風）	168
別れし子を憶う（雫石義高）	170
浅間の馬子（北原白秋）	172
●諸井三郎	
春と赤ん坊（中原中也）	174
少年（三好達治）	177
小曲（大木惇夫）	180
●清瀬保二	
東海の（石川啄木）	182
嫌な甚太（山岸曙光子）	183
●橋本国彦	
富士山見たら（久保田宵二）	186
幌馬車（西条八十）	189
百姓唄（北原白秋）	194
田植唄（林 柳波）	196
なやましきおそ夏の日に（北原白秋）	199
お六娘（林 柳波）	202
薊の花（北原白秋）	210
母の歌（板谷節子）	212
●広石 徹	
雪（殊山文雄）	214
●中村道之助	
月光（北原白秋）	216

●宅 孝二	
林檎の花が降りそそぐ（城 左門）	217
●岡本敏明	
風に乗る（竹友藻風）	220
秋くさ（佐藤春夫）	224
ふるさとの（三木露風）	226
●服部正	
君の瞳は海の色（井田誠一）	230
星と花（土井晩翠）	232
野の羊（大木惇夫）	236
●貴志康一	
かごかき（貴志康一）	240
●平井康三郎	
しぐれに寄する抒情（佐藤春夫）	242
九十九里浜（北見志保子）	244
あの山の（上州地方手まり歌）	248
平城山（北見志保子）	250
ゆりかご（平井康三郎）	252
秘唱（西条八十）	254
●小山清茂	
けむり（藪田義雄）	256
●清水脩	
春の寺（室生犀星）	258
●松本民之助	
母をよぶうた（吉村比呂詩）	262
わたりどり（北原白秋）	264
黒き落葉（吉村比呂詩）	266
●高田信一	
生まれながらに（高間筆子）	268
あのお人（高間筆子）	270
●中田喜直	
うばぐるま（西条八十）	274
たあんきばーんき（山村暮鳥）	278
ねむの木（野口雨情）	280
おやすみ（三木露風）	282

㊦赤い夕日（小松耕輔）	86
秋くさ（岡本敏明）	224
秋の唄（杉山長谷夫）	31
秋の月（滝廉太郎）	8
あさね（弘田竜太郎）	48
浅間の馬子（坂本良隆）	172
薊の花（橋本国彦）	210
あのお人（高田信一）	270
あの山の（平井康三郎）	248
妹に（箕作秋吉）	139
嫌な蒼太（清瀬保二）	183
うばぐるま（中田喜直）	274
生まれながらに（高田信一）	268
沖の鷗に（山田耕筰）	111
おやすみ（中田喜直）	282
おろかしく（山田耕筰）	116
お六娘（橋本国彦）	202
㊦かえり路（山田耕筰）	108
垣の壊れ（小松耕輔）	83
かごかき（貴志康一）	240
風に乗る（岡本敏明）	220
片しぶき（杉山長谷夫）	32
鐘が鳴ります（山田耕筰）	98
鐘のなる（下総皖一）	163
かもめ（弘田竜太郎）	40
河原菜種（草川 信）	66

河原柳（藤井清水）	26
神田祭（弘田竜太郎）	52
君の瞳は海の色（服部 正）	230
九十九里浜（平井康三郎）	244
来るか来るか（山田耕筰）	112
黒き落葉（松本民之助）	266
月光（中村道之助）	216
けむり（小山清茂）	256
荒城の月（滝廉太郎）	6
子供の踊り（信時 潔）	128
この道（山田耕筰）	120
小諸なる古城のほとり（弘田竜太郎）	35
子守唄（大中寅二）	150
子守歌（箕作秋吉）	145
㊦咲いたさくら（本居長世）	18
砂丘の上（小松耕輔）	88
さくらさくら（山田耕筰）	122
沙羅（信時 潔）	134
讃歌（箕作秋吉）	144
城ヶ島の雨（梁田 貞）	77
小曲（諸井三郎）	180
少年（諸井三郎）	177
㊦叱られて（弘田竜太郎）	54
しぐれに寄する抒情（平井康三郎）	242
信田の藪（藤井清水）	28
真珠（松島つね）	138
関の夕ざれ（本居長世）	20
早春賦（中田 章）	24

㊦ たあんきぼーんき (中田喜直) —————	278	百姓唄 (橋本国彦) —————	194
田植唄 (橋本国彦) —————	196	昼 (弘田竜太郎) —————	56
丹沢の (信時 潔) —————	130	昼の夢 (梁田 貞) —————	70
中国地方の子守歌 (山田耕筈) —————	123	富士山見たら (橋本国彦) —————	186
月待草 (草川 信) —————	68	ふなうた (坂本良隆) —————	164
出船 (杉山長谷夫) —————	30	ふるさと (大中寅二) —————	152
東海の (清瀬保二) —————	182	ふるさとの (岡本敏明) —————	226
泊り船 (小松耕輔) —————	94	ベチカ (山田耕筈) —————	118
㊧ なやましきおそ夏の日に (橋本国彦) ————	199	望郷の歌 (成田為三) —————	60
平城山 (平井康三郎) —————	250	宝石 (坂本良隆) —————	166
ねむの木 (中田喜直) —————	280	星と花 (服部 正) —————	232
野の羊 (服部 正) —————	236	ほととぎす (下総皖一) —————	158
㊨ 白月 (本居長世) —————	14	幌馬車 (橋本国彦) —————	189
芭蕉 (小松耕輔) —————	91	㊩ 松島音頭 (山田耕筈) —————	102
はつなつ (草川 信) —————	64	曼珠沙華 (山田耕筈) —————	104
花 (滝廉太郎) —————	10	㊪ 椰子の実 (大中寅二) —————	154
花嫁人形 (杉山長谷夫) —————	33	山のあなた (下総皖一) —————	160
母 (小松耕輔) —————	80	山のかえりに (草川 信) —————	62
母の歌 (橋本国彦) —————	212	雪 (広石 徹) —————	214
母のこえ (山田耕筈) —————	114	ゆりかご (平井康三郎) —————	252
母をよぶうた (松本民之助) —————	262	行々子 (信時 潔) —————	136
浜千鳥 (弘田竜太郎) —————	46	㊫ 林檎の花が降りそそぐ (宅 孝二) ————	217
✓ 浜辺の歌 (成田為三) —————	58	六騎 (山田耕筈) —————	100
パライソ (坂本良隆) —————	168	㊬ 我手の花 (信時 潔) —————	127
春と赤ン坊 (諸井三郎) —————	174	別れし子を憶う (坂本良隆) —————	170
春の寺 (清水 脩) —————	258	別れし宵 (本居長世) —————	16
悲歌 (箕作秋吉) —————	146	わすれなぐさ (大中寅二) —————	156
秘唱 (平井康三郎) —————	254	わたりどり (松本民之助) —————	264

荒 城 の 月

土井 晚翠 作詩

滝 廉太郎 作曲

山田 耕筰 編曲

想を込めて(♩ = 60)

estress. *pp* *poco riten.* *mf*

1. は る こ う ろ う の は な の え ん
 2. あ き じ ん え い の し も の い ろ
 3. い ま こ う じ ェ の よ わ の つ き

p *pp*

mf *p*

め ぐ る さ か ず き か げ さ し て
 な き ゆ く か り の か ず み せ て
 か わ ら ぬ ひ か り た が た め ぞ

滝 廉太郎 (1879~1903) の代表的な曲で、昔から広く愛唱されていますが、土井晚翠の詩と相まって格調の高い曲になっています。

ちうか ようきの まつの つるこ がぎる えには わてた けりだ いそか でいつ

しら むむかしの ひか りり
ら まかつ しに う た う は

い ま い す こ
いた まだ あ ず ら し

molto rit. *e dim.*

秋の月

(“四季”から)

Lento con tristezza (M.M. ♩ = 80)

滝 康太郎 作詩作曲
山田 耕彦 編 曲

p
ひかりは いつもか

mf *p*
わらぬものを ことさら あきの つきのかげ

mf *p*
は — など か ひ と に も の おもわ

mf *p*
す — ー など か ひ と に も の おもわ

原曲は混声四部の無伴奏の曲で、歌詞も作曲者自身のものですが、この曲は、山田耕彦氏が独唱曲に編曲したものです。曲は悲しみをもって、しかしおぼれることなく、よどみなく流れるように歌うこと。

す る ああ な く む し も お

な じ こ こ ろ か ああ な く む

し も お な じ こ こ ろ か

こ え の か な し き

p *pp* *p* *mf*

花

（“四季”から）

武島羽衣 作詩

滝 廉太郎 作曲

優美に ♩=60

The musical score is written for piano and voice. It consists of four systems of music. The first system shows the piano introduction with a treble and bass staff. The second system begins the vocal melody with the lyrics 'は る の う らーのーの すーみーだ が わ の ほり く'. The third system continues the melody with 'だーりーの ふ なび と が か いの し ず くも は'. The fourth system concludes with 'な とち る な がめを なーにーに た とーう べ'. Dynamics include *p*, *mf*, *mp*, and *f*. The piano part features a consistent eighth-note accompaniment in the right hand and a more melodic line in the left hand.

春夏秋冬にちなんだ四曲からなる組歌「四季」の第一曲。国文学の大家である武島羽衣の詩による曲で、女声二部合唱で今なお広く歌われている優美な曲です。

き み ず や あ

p

けーぼーの つーゆーあび て われに も のーいー

mp *mf*

さくらぎを みずや ゆうぐれてを のべ

f

て われさしまーねーく あおーやぎを

mf

に し き お り な ー す

ちやう -- て い に く る れ ば の -- ぼ る お ぼ ろ づ

き げ に い っ こ く も せん きん の な が め を

な -- に -- に た と う べ き

荒城の月

土井晩翠 作詩

春高樓の花の宴

めぐる盃 かげさして

千代の松が枝 わけいでし

むかしの光 いまいずこ

秋陣營の 霜の色

鳴き行く雁の 数見せて

植うるつるぎに 照りそいし

むかしの光 いまいずこ

今荒城の 夜半の月

かわらぬ光 たがためぞ

垣にのこるは ただかつら

松に歌うは ただ嵐

天上影は かわらねど

栄枯は移る 世の姿

写さんとてか 今もなお

ああ荒城の 夜半の月

秋の月

滝 廉太郎 作詩

ひかりはいつも

変わらぬものを

殊更秋の月の影は

などか人に物思わする

ああ 鳴く虫も同じ心か

声の悲しき

花

武島羽衣 作詩

春のうららの 隅田川

のぼりくだりの 船人が

櫻のしずくも 花と散る

ながめを何に たとうべき

見ずやあけぼの 露あびて

われにもの言う 桜木を

見ずや夕ぐれ 手をのべて

われさしまねく 青柳を

白 月

三木露風 作詩

錦おりなす 長堤に

暮るればのぼる おぼろ月

げに一刻も 千金の

ながめを 何にたとうべき

照る月の 影みちて

雁がねの さおも見えずよ

わが思う 果も知らずよ

ただ白し 秋の月夜は

吹く風の 音さえて

秋草の 虫がすだくぞ

何やらん 心も泣くぞ

泣きあかせ 秋の月夜は

別れし宵

竹久夢二 作詩

タランテラ おどれるひまに

春はゆき 草の実は野に散れり

別れし宵に 月はにるとも

あの夜のひと

なにを歌わん なにを歌わん

白 月

三木露風 作詩
本居長世 作曲

Andante

mf *p* *f* *mp* *p* *mf* *p* *sf*

1. て る く つ き の か
2. ふ る か ぜ の お

げ — み ち — て
と — さ え — て

か り が ね
あ き ぐ ぎ

の さ お も — み え ず よ
の む し が — す だ く ぞ

本居長世 (1885~1945) は、ただ白々と冴えわたる秋の月の冷たさが心にしみてくるような曲です。むせぶようなメロディーですからあまりセンチに歌いすぎない方がよいでしょう。

ff *p* *più lento*

わ が — お も う は — て — も し ら — ず
 な に — や ら ん こ — こ — ろ も な — く

ff *più lento*

And. *

mf *pp* *mf*

よ ぞ た な だ き し ろ か

And. *

f *rit.* *L.H. R.H.* *rit.*

し せ あ き の つ き — よ は
 あ き の つ き — よ は

And. *

2. *8*

き — よ は —

And.

別れし宵

— 小 唄 —

竹久夢二 作詩
本居長世 作曲

Andante

p

cresc.

p

rit.

p *mf* *p* *v p*

タ ラ ン テ ラ おど れ る ひ ま に は

p *p* *p*

p *v p*

る は ゆ き く さ の み は の に の に ち れ り

竹久夢二の感傷的な詩につけた曲です。テンポはあまり速くなく、しみじみとさびしさをこめて歌うこと。